

実施日：10月28日	
領域：(①教科()、②道徳(特別の教科 道徳)、③特別活動、④総合的な学習の時間)	
取組名：ふるさとデー	
対象：全学年	実施場所：稲美中学校体育館、各教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育と防災教育は切り離せない関係にあり、防災教育の充実は人権感覚の涵養に大きく寄与している。「つながる人・つながる心・つなげる夢・未来」の旗印のもと、コミュニティスクールが中心となり、「学校と地域が願いを共に、命の大切さを学ぶ地域ぐるみの防災教育」をめざし、生徒の人権感覚を涵養に努める。 ・ 地域の方と共同して避難所開設ゲームや段ボールベッド作成など具体的な学習に取り組むことで、いつ起こるかもしれない災害に対して、備えることの大切さと防災意識の向上をはかる。 	
<p>イ 指導内容(指導略案)や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会行事として、東日本大震災の経験をもとにつくられた合唱曲「群青」の全校合唱、人権宣言についての発表、救急救命講習から学んだこと、アクティブレスト、災害時の食についてなど、生徒の取組の発表を行い、ふるさとデーまでの学習の成果を発表する。 ・ 又吉健二氏による講演により、防災とボランティアの関連について多面的に考える機会とする。 ・ 1年生は、兵庫県防災士会による搬送法や段ボールトイレの作成、2年生は、明石工業高等専門学校(明石高専)防災団 D-PR0135° による避難所設営シュミレーションゲーム「チャレンジ」、3年生は、加古川消防署、地域消防団による段ボールベッド、放水訓練、暗闇(目隠し)体験、スモール体験など、各学年において本格的な防災体験教育を行い、3年間の系統的な学びにおいて、いつ起こるかもしれない災害に対する実践力の涵養をめざす。 ・ 防災に関する各学習を通して、将来の地域の担い手となる生徒たちが、地域の方とつながり、災害時には共に「ふるさと」を守れることをめざす。 	
ウ 連携先：コミュニティスクール、地域	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月当初から、コミュニティスクールと共同して計画。兵庫県防災士会、明石工業高等専門学校、明石高専防災団 D-PR0135°、加古川消防署、地域消防団にも協力依頼をした。学校にとどまらない防災学習となるようコミュニティスクールをはじめ、多くの地域の方の参加を募った。 	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさとデーの内容に関してはコミュニティスクールでの会議で決まっている。開会行事から講師による講演までは学校の担当となり、生徒会執行部や有志の生徒による防災学習の発表の場とした。 ・ 教師は各学年の学習に共に参加し、地域－生徒－教師の共同による学びを進めた。 ・ 終了後は、生徒には感想、地域の方にはフォームの用いたアンケートへの協力を依頼した。それぞれの結果をもとに職員会議、コミュニティスクールでの会議において、成果と課題について話し合いを行い、来年度への引き継ぎとした。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒や参加者の感想用紙 ・ アンケートフォーム ・ 教師によるふり返しシート ・ 次年度に向けた反省会 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災について多方面から考えることで、正しい知識と必要な実践力を獲得できた。 ・ 地域の方と一緒に取り組み考えることで、被災した際に共同して避難活動を展開(共助)することに不安を示す生徒が少なくなった。 ・ 自分たちの「ふるさと」を大切にしたい思いをより高めることができた。 	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に災害が起こったときは、町役場と共同して避難所設営やボランティア活動をする事となる。ふるさとデーの取組を町役場と共同して行うことで、より被災時を想定したものにしていく必要がある。 ・ 周辺には高齢者施設や特別支援学校もある。そういった施設との共同学習もめざしていくべきではないか。 ・ 開催日時を検討し、多くの人に参加できる日程に設定したい。 	